

製造業安全対策官民協議会ワーキンググループ（WG）の進め方

平成29年6月
厚生労働省安全課
経済産業省金属課

1. 構成員

協議会の構成員会社の担当部長クラスの者

田村 昌三 東京大学名誉教授
向殿 政男 明治大学名誉教授
野澤 英児 労働基準局安全衛生部安全課長
山下 隆也 製造産業局金属課長
小野 晃 中央労働災害防止協会専務理事

2. 検討スケジュール

- (1) 第1回WGを6月に開催。
- (2) 平成29年11月8日～10日に神戸で開催される「全国産業安全衛生大会」までに3回程度開催。

3. 主な検討事項

平成29年3月28日に開催した「製造業安全対策シンポジウム」において、産業安全を取り巻く環境の変化とそれへの対応の方向性、今後必要な取組などについて意見交換を実施。その結果、協議会への提言として指摘された次の事項について検討を行う。

- (1) 今秋までに、日化協会長、鉄連会長等の異業種トップ座談会の実現。
- (2) 安全管理体制強化のため、労働安全衛生マネジメントシステムのJIS策定への協議会の関与要請。今秋に策定予定のJISに対し、意見を反映。
- (3) 安全投資促進のため、リスクアセスメントの標準手法の開発及び設備点検・補修・更新基準の共通化。今秋の安全大会までに、作業スケジュールを明確化。
- (4) 安全対策の経済・社会的効果分析（※）。今秋の安全大会までに、作業スケジュールを明確化。

※共通指標を用いた個社・業界ごとの安全力チェックと他者・他業界との比較を含む。

- (5) 産業界における安全教育の体系的プログラムの策定。今秋の安全大会までに、作業スケジュールを明確化。学校教育の見直しの提案についても今後検討。

4. 当面の検討内容

本年11月の全国安全衛生大会までの間の3.の検討事項ごとのWGでの検討は、以下の方針とする。

- 検討事項(1): 今秋までに、異業種トップ座談会を実施する。座談会のテーマ等を検討する。
- 検討事項(2): 各団体が実施しているマネジメントシステムの導入状況、普及・有効活用させるために必要な支援内容等に関する実態調査を行い、その結果を集計、分析し、JIS原案作成委員会に対し申し入れを行う。併せて、実態調査の概要をとりまとめる。
- 検討事項(3): 各団体が実施しているリスクアセスメントの実施方法等について実態調査を行い、結果を集計、分析し、共通事項としてとりまとめが可能な事項を洗い出すとともに、実態調査の概要をとりまとめる。併せて、今後の検討スケジュールを決定する。設備点検等基準については、厚労省の委託調査事業に協力する。
- 検討事項(4): 有識者から現状の研究状況等について聴取しつつ、現存する資料を踏まえ、今後の検討の方向性に関する発表資料を作成する。
- 検討事項(5): 各団体が実施している教育内容等について調査を行い、その結果を集計分析し、共通事項としてとりまとめが可能な事項を洗い出すとともに、実態調査の概要をとりまとめる。併せて、今後の検討スケジュールを決定する。

5. WGの検討体制

(1) WGの構成

- ① 検討テーマ全体を俯瞰するWGを設置する。
- ② 検討を効率的に進める観点から、それぞれの技術的な視点から検討を要するテーマ、特定の業界団体に特化しないテーマ等については、別途、必要に応じてWGを分割(サブWG)して検討することも可能とする。

(2) WGの構成員

- ① WGの構成員の中から、運営委員を指定し、総括的な議論を行う場合は運営委員によるWG(全体WG)を開催する。

- ② 個別のテーマを検討する際は、3. の検討テーマごとに主査（取りまとめ）を指名する（下表参照）。検討テーマごとのサブWGの構成員は、各団体の意向を尊重して決定する。
- (3) 当面のWG等のスケジュール
- ① 全体WGについては、6月上旬をメドに第1回、8月～9月に第2回を開催する。その間に、サブWG（向殿WG，田村WG）を必要に応じて開催する。
- ② 9～10月ごろに、第2回の官民協議会を開催し、WGの検討状況を報告するとともに、今後の方針等を議論する。
- ③ 11月の全国産業安全大会の特別セッションで、各テーマの検討状況に応じ、適宜報告を行う。

検討テーマ	主査	団体
(1)	日本鉄鋼連盟	(調整)
(2)	向殿先生	テーマ毎に各団体から最低1名出席
(3)	向殿先生	
(4)	田村先生	
(5)	田村先生	